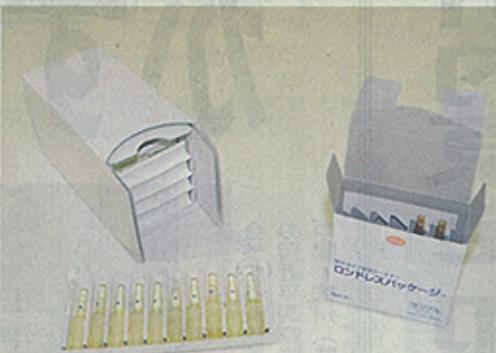


開発した「ロンドレスパッケージ」(右)。箱と緩衝材が別になった従来の梱包材(左)に比べコストを低減できる



る。新たに開発した包装材は「ロンドレスパッケージ」の名称で、内部を仕切る板と外箱が一体構

紙器製造のタイヨーパッケージ(立山町利田、楠行博社長)は、緩衝材の機能を持つ仕切り板と外箱を一体化させた高機能の医薬品包装材を開発した。医薬品メーカーにとっては、外箱と別に緩衝材を用意する必要がなくなり、資材コストを低減できる。軟こうなどチューブ剤向けから市場投入し、注射剤などガラス容器に入った製剤向けも展開する。薬価引き下げへの対応を急ぐ医薬品メーカーに提案し、主力製品の一つに育てる考え。

医薬品は外観に傷なのがある。このため、現在は「ロンドレスパッケージ」と呼ばれる緩衝材に包んでから、外箱に入れ

て傷やへこみを防止するのが一般的になつていい

送時に医薬品同士がぶつからず、傷などを防ぐことができ。医薬品メーカーは、緩衝材を別に発注、保管する必要がなくなるため、包装材コストを約5割削減できるとい

う。同社は特許を出願中。

ロンドレスパッケージの開発に合わせ、国内の機械メーカーと専用の自動包装システムと併用することにより、箱を組み立てて医薬品を入れ、上部を閉めるまでの一連の工程を自動化。緩衝材で包み、外箱に詰める、という2工程が必要だった従来の作業を省力化できる。ユーザーの医薬品メーカーに外箱と併

せて提案する。同社は年末に海外製の生産設備を新たに導入し、より複雑な形状を持つ新包装材の量産体制を構築する。チューブ剤用を2017年から投入するのに続いて緩衝機能をより高めたガラス容器入り製剤向けもそろえ、医薬品メーカーの需要を掘り起こす。

# 緩衝材不要の薬品箱開発

## タイヨーパッケージ 資材コスト削減